



2018年2月1日

## 当社グループ初の海外での森林保全活動に着手 ～マレーシア(サラワク大学)で熱帯雨林再生プログラムに参画～

高砂熱学工業株式会社  
本社・東京都新宿区新宿6-27-30  
会長兼社長・大内 厚、資本金13,134百万円

高砂熱学工業株式会社は CSR 活動の一環として、2016 年から森林保全・再生活動を全国規模で実施してきましたが、このほど海外では初となるマレーシアでの植林活動に参画することといたしましたのでお知らせします。

マレーシア・サラワク州/サラワク大学構内で実施する「熱帯雨林再生プログラム」に参画することとし、本日(2月1日)、当社と当社のマレーシア現地法人である T. T. E. Engineering (Malaysia) Sdn. Bhd. (代表：浅野啓一) および公益社団法人 日本マレーシア協会(理事長：小川孝一)※の三者間で本件に関する契約調印を行いました。

熱帯雨林再生プログラムは熱帯雨林再生モデルとなる森林を造成し、大学による森林再生の調査研究に活用するとともに、マレーシア国内の緑化・熱帯雨林の保全と再生に役立てることを目的としています。

サラワク大学はサラワク州唯一の国立総合大学であり、同大学とサラワク州森林局と共同で植林活動を行います。サラワク大学構内 熱帯雨林再生予定区画 20ha のうち、活動場所となる 10ha を「タカサゴの森」として、2018年1月より5年間植林活動をします。

マレーシア現法を中心に、毎年10月頃にはサラワク大学生、地域の小中高生、他現法や国内社員から参加者を募り、植樹行事を開催する予定です。植林活動に携わる人々との情報交換や人的交流を通して、森林保全の大切さについて理解を深め、グループ役職員の家族や、学内・地域社会を含め、この活動の輪を広げていきます。

当社としましては、サラワク大学での熱帯雨林再生活動への参画といった現地への社会貢献を通じて、マレーシア現法を含む当社の企業価値向上に努めてまいります。なお、当社が実施している森林保全・再生活動は、この度のマレーシアを含めて5拠点目となります。

※ 1956年12月、外務省の外郭団体として発足。親善交流活動、熱帯雨林再生活動、情報収集や海外派遣研修などを行っている。

本件に関するお問い合わせ先  
高砂熱学工業株式会社 経営企画部広報室 鷺尾、土屋まで  
Tel:03-6369-8215(直通)

※写真は別添をご参照ください。

<別添>



左から、

公益社団法人日本マレーシア協会 理事 森林 高志

公益社団法人日本マレーシア協会 専務理事 新井 卓治

公益社団法人日本マレーシア協会 理事長 小川 孝一

当社代表取締役会長兼社長執行役員 大内 厚

当社マレーシア現地法人 社長 浅野 啓一

当社取締役常務執行役員国際事業統括本部 本部長 田渕 潤

以上